

# 病院と地域をむすぶ



# パイプライン



2017年9月号

発行：2017.9.11 総合病院 南生協病院

8  
月  
実  
績

一日外来患者数:838.8人 一日入院患者数:273.0人 ベッド稼働率:88.2%  
救急車:240台 手術数:107件

## 進化していく薬のために

薬剤科 広兼綾乃

みなさんは最近、テレビや新聞で医療技術の進歩に関する話題を目にされたことはありませんか？皆さんの健康を助けてくれる「薬」も日々新しいものが誕生し進化しています。

そんな薬の情報を医師などと共有して、患者様の治療に役立てていくのも私たち薬剤師の仕事です。当院の薬剤師は主に入院患者様のお薬の調剤や服薬指導を行なっていますが、患者様の体の大きさや機能に合せたお薬の量のチェックや提案、そして患者様の生活背景に合せた服薬方法の提案もさせて頂いています。また最近処方箋に検査値を記載し調剤薬局においても患者様の体にあつたお薬の量がチェックできるように近隣の薬局との連携を進めています。

今年6月には当院と近隣のクリニックとの連携を目的とした勉強会にて「当院における酸分泌抑制薬の使用実態」と題して発表をさせて頂き、当院のスタッフだけではなく近隣のクリニックや診療所、薬局からも参加を頂きました。事例を交えながら当院での薬剤師の取り組みを知って頂くと共に他院の先生方からの意見交換を行なう事も出来るため、双方にとって有意義な勉強の時間が持つことが出来たと思います。

今後も当院では勉強会を開催しながら、最新の情報をキャッチし職種や院所の垣根を越えて意見交換を行ないながら皆様の健康のお手伝いをさせて頂きます。

## 術前不安を抱いた患者への看護援助を通して学んだこと

手術室看護師 柴田咲恵

今回担当させて頂いたK氏は腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を受けました。手術前日に何うと様々な不安を訴えられました。その不安に対して術前訪問ファイルを見せ説明を行い、ひとつひとつの不安・疑問に答えました。

しかし、手術当日に手術台に寝たK氏から自分の体の中に入る医療材料について不安の声が聞かれました。手術前に手術の流れを説明したことでK氏の不安は解消されたと思っていましたが、手術直前の言葉から自分の行った看護が十分でなかったことに気付きました。

そのため、手術後の訪問で実際にK氏の不安の基であった体内に入る実物を見せ大きさ・素材、固定の方法を説明するとK氏は「それがわかってスッキリしました」と発言され、術前・術後を通して、ようやくK氏の不安を取り除くことができたのだと感じ、手術室看護師の対応が手術を受ける患者の支えとなり、安心と信頼の獲得に繋がることを学ぶ事ができました。